

平成20年（2008年）3月20日発行



学校法人 日本工業大学創立100周年

100周年記念の平成19年度が終わろうとしているが、学園第二世紀はこれから本番。今後も変わらぬ御支援をお願いしたい。左は、100周年記念シンボルマーク。無限を表す「メビウスの環」をモチーフとしてデザインされている。

学位取得おめでとう 卒業生に贈る言葉



学長 柳澤 章

ご卒業おめでとう。

本学園が第2世紀のスタートを迎えたとき、諸君もまた大いなる人生の次のステップのスタートを切るのです。

諸君は本学において、機械工学、電気電子工学、建築学、システム工学、情報工学と、それぞれの技術を磨いてきました。実験、研究、設計、制作に、研究室に泊り込むなどして打ち込んだことでしょうか。それは、ほかならぬ、諸君にエンジニア魂を育んできた日々ということができるに違いありません。

日本工業大学の強みは、理論を現場に活かす実工学をそなえたエンジニアを育成することにあります。実工学とは、別の言



理事長 大川陽康

学位を取得された諸君、またにおめでとうございます。

本学園は昨年、創立100周年を迎え、それを機に、新時代の工業教育の磁場にふさわしい環境や制度を整えました。狙いは、〈技術〉〈知識〉そして〈情報〉が従前にもまして経済の駆動力になっていくと指摘される、いわゆるポスト産業資本主義の時代に、新たな学びの手立てが飛躍的に高まっているからに他なりません。

ことほど左様に、諸君も、いまこの場からでも時代に即応する気構え、自分なりの新たな知の枠組みを据え直さなければなりません。と申しますのは、ま

実現する工学をそなえた エンジニア

エンジニア

い方をすれば、実行する工学であり、まだ形にされていない理論を実現する工学と考えることもできるでしょう。そうした力を、実現するんだという意志を、みなぎらせてきたのが、本学での学びの積み重ねだと胸を張っていただきたいと思っています。

さて、この時代に技術を学んだ者として、人生の次のステップに踏み出す諸君は、諸君が活躍するフィールドである、この地球に目を向けなければなりません。気候変動、いわゆる地球温暖化問題は、今や待ったなしです。南太平洋の国々の水没の危機は進行しており、日本においても温暖化は、米作への影響などが指摘されています。石油

代替エネルギーとして浮上したバイオ・エネルギーは、世界の食糧問題の脅威といわれます。アメリカなど炭酸ガス排出超大国も、ようやく他の国とともに取り組む姿勢を見せはじめたように思えます。日本は京都議定書以来のリーダーシップの発揮が期待されているのです。

諸君の職場となるであろう企業においては、環境対応は、よりシビアであるでしょう。もはや環境配慮といったゆるいものではなく、数値が突きつけられています。企業としての生き残りをかけ、他社よりも数値として優位に立っていないければならぬ、といった競争の時代に突入しているといわなければなら

ません。

アメリカのある調査会社の発表によれば、これからの技術トレンドの第一位に挙げられるのが、環境に優しい情報通信技術だともいっています。そうした調査を待つまでもなく、エンジニアにとって、環境はもはや優先的に取り組まなければならない技術的課題なのです。

環境負荷を限りなくミニマイズする生産システム、消費スタイルを作り出すことが、21世紀の人類の課題です。実現する工学たる実工学の自負をもって、諸君に、この大きな仕事に挑戦していただきたいと願っています。今日のエンジニアとしての責務を果たし、かつ社会からの期待に応えるために、新しいスタートを始める諸君と、第2世紀を歩む本学とが、ともに実工学の力を発揮していくこと、たいへん喜ばしいことであると思っています。健闘を祈ります。

自己陶冶の堅持を！

ますます厳しさの度を増す時代変化の渦中において、企業や諸官庁など各組織社会で期待される業績や責務を遂行して行かなければならないからであります。

ちなみに昨今の企業社会などでは、「日本は没落する！」「もはや経済の一流国ではない！」と指摘されるさなかで、生き残りをかけて、有能かつやる気のある人材育成に躍起です。

諸君の活躍の舞台であるへものづくりの世界で希求される能力とは、諸々のアイデアを具現化する高度な専門技術にあることは言を俟ちませんが、より己の活躍の場を拡げるためには、果敢にアイデアを産み出せる知

力。加えて、その企画製品が社会的にどのような意味を持ちうるか、ふかく洞察できる見識と、言っていることです。

そして、これらの知力や見識などを身につけるためには、第一に、つねに耳目を働かせて世の中の事象や動向を観察すること。そして第二は、次々に生起する技術革新に対処できる、専門知識の学び直しが肝要です。

そこで私は、ここに諸君へのはなむけとして「自己陶冶（とうや）」という言葉声を大にして贈りたいと思います。

言い添えば「陶」とは焼き物を造る、また「冶」とは冶金の治で金属を精錬するという意

味ですが、転じて、人間も時に焼きを入れ、鍛えるということをやらないと、ものにならない。つまり最高の教育を受けた人間でも、のちの自己陶冶を怠ると、尊敬される人間や社会に役立つ人物にはなり得ない、ということでもあります。

さらに申し上げれば、今後は己の力で道を切り拓いて行くほかありません。道を切り拓く基礎的な方法論に関しては、すでに諸君は大学で教養を受けているはずですから、それを参照しながら自分なりの生きる道筋を見出していただきたい。

大学院へ進まれる諸君は、どうか研究に邁進して、いい論文を仕上げて下さい。先生方も諸君の独創的な眼差しを、心待ちしているはずですよ。

それでは、時に趣味やスポーツ等にも大いに親しみ、どうか心ゆたかな人生を築き上げてください。諸君のご健闘を、衷心より祈念申し上げます。

専門職大学院だより

学生の声を活かす運営

本専門職大学院もこの3月でいよいよ累積で1000人を超える技術経営修士を送り出すことになる。ちょうど3年前のこの季節に期待と不安が入り混じる中で新しい大学院を開校した頃のことを思い出すと、感慨もひとしおである。

20代後半から70歳までの年齢の違いもさることながら、職歴や人生経験すべてが異なる多彩な社会人学生相手の日々は、我々教職員

にとっても新鮮かつスリリングな体験である。彼らとの交流は教室内での講義にとどまらない。学外、つまり神田キャンパス近隣の居酒屋での深更にまで及ぶ熱い議論に発展することも決して珍しくない。

本大学院としても夏学期、冬学期の期初に行われるオリエンテーションにあわせて学生と教職員の「意見交換会」を開催して学生の意見、提案を聞く機会を設けている。また、本大学院の運営の重要な要素になっ

ている。

有名なトヨタの「カイゼン」では社員達から毎年、100万件以上の意見や提案が寄せられるという。中には重複するものもあるだろうが、それにしても大変な数である。こうした社員達の真摯な声があつてこそ世界企業としてのトヨタが存在している。

社会人大学院も教職員のみで存在するわけではない。そこには学生達の積極的な参画が欠かせない重要なファクターになっていることを改めて痛感している次第である。

（教授（教務委員長）

宇野永紘

カレッジマイスター 23名

カレッジマイスター プライマリー 35名

誕生



機械加工工場の学生たち

本学の教育の柱、工房教育プログラムは全学的に整備・構築され、本年度はカレッジマイスターエクセレント11工房、カレッジマイスタープライマリー4工房の計15工房が活動した。これらの工房で技を磨き総合的な

判断力を身につけた学生には、それぞれ「カレッジマイスター」、「カレッジマイスタープライマリー」の称号が与えられる。本年度、カレッジマイスターは次の5工房から23名が認定され、学位記授与式で認定証と金メダルが与えられる。また、「カレッジマイスタープライマリー」は4工房から35名が誕生する。授与式は、来年度4月の学科専門オリエンテーション時に行われる。

■カレッジマイスター
機械加工工房 5名
池田紀龍、市川賢一、菅原光洋、杉原光 平久悦之
型技術工房 7名
天野耕平、木暮祐一、神山

留学生別科38名修了

留学生別科日本語研修課程の修了証授与式が、3月1日午前10時30分から学生会館ホールで行われた。

今回の修了者は、平成19年春季入学生36名と18年秋季入学生2名の合計38名。国別で見ると、中国29、ミャンマー、ベトナム各2、

パンクラデシ、サウジアラビア、タイ、イタリア、モンゴル各1である。

修了生の16名が本学学部へ進学するほか、大学院への進学と研究生希望が計3名いる。別に、19年秋季入学の2名が、成績優秀により学部への進学を果たした。



学長から記念品目録を受取る別科生代表

電子創造工房 1名
郡司一仁
サステナブル建築工房 4名
趙正陽、植田恵理、岡崎文香、小林恭子

物理体感工房 3名
小松拓哉、小澤一義、山崎

和俊、Kandam Mananhar

木暮祐一、神山

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

菅原光洋、杉原光 平久悦之

平成
十九年度
卒業生一覽
3月20日付
確定者

早期卒業

【機械工学科】

機械工学科

電気電子工学科

建築学科

3月20日 学位記授与式に
学長賞受賞者を表彰

●平成19年度 「学長賞(学部生)」候補者一覧

学部	学 科	氏 名	出身校
	機械工学科		
	電気電子工学科		
	建築学科		
	システム工学科		
	情報工学科		

この賞は「日本工業大学学生
表彰規定」に従って平成18年度
から実施され、今年度は平成19
年3月20日の学位記授与式にお
受賞者は左記の通りである。

システム工学科

情報工学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

【機械工学専攻】

【情報工学専攻】

【建築学専攻】

●博士後期課程

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

【電気工学専攻】

【システム工学専攻】

【システム工学専攻】

◎宮代キャンパス学位記授与式

3月20日(木)

大学院技術経営研究科修了生

(予定)

●専門職学位課程

【技術経営専攻】

◎神田キャンパス学位記授与式

3月22日(土)

博士号取得

おめでと〜っざいます

課程博士

佐川君「マイクロマウスコンテスト」で受賞



左から島崎君、佐川君

機械工学科中里裕一研究室に所属する同学科4年の佐川弘樹君（福島県立平工業高校出身）と島崎洋一君（東京都立科学技術高校出身）が、平成19年11月18日（日）に開催された全日本マイクロマウスコンテスト・

迷路の脱出を行わせるもので、迷路の探索から脱出方法の検討まで全てロボット搭載の人工知能で行う。出場するロボットは車輪で移動をする機体がほとんどだが、両君は歩行型の機体を作製し、会場全体を沸かせ高い評価を受けた。

学生代表と柳澤学長の第6回懇親昼食会



（前列左から）吉見課長、清水君、柳澤学長、梅崎部長
（後列左から）長井君、中村君、齋藤君、岡部君、飯島君、谷口君、長澤君

自治会の委員長・会長が8名、大学側から柳澤学長、梅崎学生支援部長、吉見学生支援課長が出席。昼食をとりながら、和やかな雰囲気懇談が行われた。

1月21日（月）、第6回懇親昼食会が開催された。この件については大学側も憂慮しており、鋭意検討していく、ということである。

学内合同企業説明会



企業担当者の説明を熱心に聞く学生

今年度は201社の参加を得て、2月21日から29日

物品購入に「たのめーる」導入

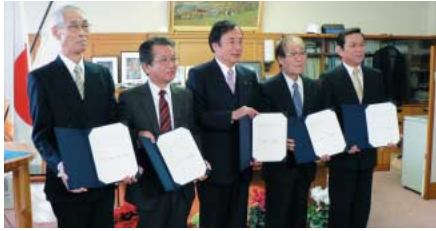
「日本工業大学における予算執行の不正防止に関する基本方針」に基づき、発注から納品に至る過程の透明性が高いウェブ調達システム「たのめーる」を導入した。平成19年12月から事務部門における消耗品等の購入手段として運用を開始。今後、宮代キャンパス全体に拡大していく予定である。（財務部）

最近の環境活動

環境特別講演会

平成19年12月7日（金）、様々な環境問題に取り組まれている鶴田佳史氏をお招きし、「地球温暖化と環境経営」をテーマに環境特別講演会を実施した。多くの学生が参加し、環境共生意識の向上が図られた。EMS推進協議会平成20年1月11日（金）、大学と学生のコミュニケーション（財務部）

「大学によるリカレント教育」共同実施、埼玉県と協定書締結



上田知事と県内4大学が協定書の交換（左から2人目が柳澤学長）

シニアの積極的な社会参加を目的とする開放授業の呼びかけに応え、昨年12月25日、埼玉県庁で上田知事と柳澤学長の間で協定書の交換が行われた。対象は県内在住の55歳以上の方、学部生と共に受講する。春学期より「日本建築史」、「建築計画3」、「環境とエネルギー」を開講。秋学期は別科目を開講する。要項は本学ウェブページで公開中。

新成人式講演会

平成20年1月17日午後6時30分より学生会館ホールにて、学生自治会主催による第27回新成人式講演会が開催された。プログラムは若手お笑い芸人の「ワリカンジャパン」のライブと雑誌等で人気上昇中のクラブヒップホップ「南明奈」のトークショー。特に南さんは現在18歳で、先輩の立場から成人を迎えた先輩たち

後援会新入会員説明懇談会

平成20年度の入学予定者を対象に、後援会の支部主催による「新入会員説明懇談会（入学説明会）」が、1月27日（日）から3月16日（日）まで、全国18会場で開催された。

天満宮例祭



好天に恵まれた今年の例祭

平成20年度日本工業大学天満宮例祭が、2月23日11時から天満宮社前にて挙行された。昨年10月、小山崇敬会会長、前会長であった飯田顧問が逝去されたため今年は会長不在での例祭となった。当日は、川島同会副会長以下、大川理事長、柳澤学長等が参列。なお、例祭の前に関われた幹事会において新会長に田川鋭治氏が互選された。

人事異動

【任用】（1月1日付）
◆森戸秀幸事務職員（総務部総務課）
【任命】（12月20日付）
◆企画室室長 原利次教授（再任）
◆教育研究推進室室長 波多野純教授（再任）
（3月1日付）
◆副理事長 柳澤章学長
◆奥寺広政事務職員（専門職大学院）
【定年退職】（3月31日付）
◆村川正夫教授（専門職大学院）
◆酒井誠教授（共通教育学系）
◆鈴木康之教授（共通教育学系）
◆藤崎雅彦講師（共通教育学系）
◆石田之則教授（電気電子工学科）
◆市橋重勝教授（建築学科）
◆渡辺顯教授（システム工学科）
◆樺澤康夫教授（情報工学科）
◆田部井英世助手（機械工作センター）
◆浅野ミエ子主任（学生支援課）
【退職】（12月22日付）
◆奥住文徳事務職員（専門職大学院）
◆増田伸爾教授（専門職大学院）
◆中村洋一教授（システム工学科）
◆神力正宣教授

国外出張（12月後半～3月）

◆成田健一教授（建築学科）／出張先：タイ（12/23～27）／目的：タイの省エネ促進に向けたエネルギーマネージメントシステム構築実証事業（電力ネットワーク）（首都圏配電公社）との現地合同会議への出席
◆中村洋一教授（システム工学科）／出張先：中国（1/9～15）／目的：第6回画像科学とハードコピーに関する国際会議への参加と論文発表
◆北久保茂准教授（システム工学科）／出張先：中国（1/9～15）／目的：第6回画像科学・ハードコピーに関する国際会議での論文発表
◆星野坦之教授（システム工学科）／出張先：中国（1/10～14）／目的：第6回画像科学・ハードコピーに関する国際会議の日本側議長、論文発表
◆伴雅人准教授（システム工学科）／出張先：中国（1/10～14）／目的：第6回画像科学・ハードコピーに関する国際会議での論文発表
◆田中隆治准教授（学修支援センター）／出張先：カナダ（2/13～20）／目的：多文化理解教育プログラム関連打ち合せ、建築及び英語関連取材・資料収集
◆中村俊一郎教授（電気電子工学科）／出張先：オーストラリア（3/4～9）／目的：非線形回路と信号処理に関する国際ワークショップでの論文発表
◆成田剛准教授（建築学科）／出張先：インド（3/7～16）／目的：日本国政府ODA有償プロジェクトにおけるアジャスター・エロラー石窟寺院の保存修復

編集後記

▼学部及び大学院を卒業・修了した諸君、おめでとう。目標をクリアしたことに誇りを持ってもらいたい。又、このなかで勉強のみならず課外活動もアルバイト等を通じ、様々な経験と多くの友達や知人を得た人は、それらが、これから人生を必ずや豊かに導いてくれるものと思ってい。今日から又、何度目のスタートラインに自らの位置をとり、次の目標に向かって歩を進めてもらいたい。現在の就職戦線は「2007年問題」もあり絶好調である。もちろん諸君の努力の成果ではあるのだけれど、やはり運・不運で言えば、今は「運」の強い時である。それをアドバンテージとし、おごらず謙虚に、そして、勇気を持って活躍して欲しい。健闘を祈る。（F）

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。